

# 近衛中学校 令和7年度後期学校評価アンケート

## 考察(全国学力調査生徒質問紙との比較から)

1. 学校教育目標【自主自律そして自治】への到達度  
「社会や人とのつながりを大切にし 可能性を最大限に探究する たくましく生きる生徒」

Q. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか(社会や人とのつながりを大切に)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計     |
|------|-------|-----------|-------|
| 全国   | 22    | 53        | 75    |
| 京都府  | 20    | 53        | 73    |
| 本校生徒 | 29→28 | 50→38     | 79→66 |

### 【考察】

12月に学校運営協議会の理事を講師にお招きし、全校防災学習を行った。1年生は総合で減災・防災を軸に立て、12月に行った校外学習でも神戸の防災センターへ行った。学年別にみると1年生はこの項目は51%となっており、さらに学習の成果とのつながりを模索しなければならない課題があると考えられる。今後も引き続き様々な行事を通して、地域とのつながりを大切にしていきたい。また家庭科の授業などでも、例年高齢者体験や保育所訪問なども行っているが、生徒の中には社会とつながっているという意識がないようなので、次回から質問形式を変えていくと、この項目もポイントが上がってくるのではないかとと思われる。

Q.家で自分で計画を立てて勉強していますか(可能性を最大限に探究する)

|      | 当てはまる    | だいたい当てはまる | 計        |
|------|----------|-----------|----------|
| 本校生徒 | R6/20→23 | R6/37→37  | R6/57→60 |

### 【考察】

学年別に見ると、1年49%・2年67%・3年61%で全校の6割の生徒が計画的に学習できていると回答している。学年によって差があるが、これは昨年度よりスケジュールノートを変更し、自らを見つめなおす機会が増えていることからくる。また2年生は何かの集会があるときには、スケジュールノートを持参し、メモをとる習慣がついており、スケジュールノートを利用し、ノートを開ける回数も多いと推察される。これが計画的に学習することにつながっているのではないかとと思われる結果が顕著に出ている。来年度も継続してスケジュールノートの活用を定着させていきたい。

Q.授業では課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる(可能性を最大限に探究する)  
(分からないことや知りたいことがあった時、自分で学び方を考え、工夫することができる。)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計  |
|------|-------|-----------|----|
| 全国   | 27    | 50        | 77 |
| 京都府  | 26    | 51        | 77 |
| 本校生徒 | 29→36 | 51→53     | 89 |

### 【考察】

前期と比べ、ポイントが上昇しているのがわかる。日々の授業で課題解決に向け、授業を大切にしている生徒が多いことが見てとれ、充実しているものと判断できる。今後も自分の学び方を考え、工夫していける生徒を育成していきたい。

Q. 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している(たくましく生きる)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計     |
|------|-------|-----------|-------|
| 本校生徒 | 25→26 | 51→55     | 76→81 |
| 保護者  | 15→15 | 54→56     | 69→71 |
| 教職員  | 6→12  | 56→65     | 62→77 |

### 【考察】

生徒、保護者、教職員ともにポイントが上がっている。これまでの授業や行事などを通して、クラスの活動でも、お互いを受け入れ、理解し合い、失敗しても良い安心感が生まれ、積極的に行動できる土壌が育っていると考える。今後ますます挑戦する気持ちを持ってたくましく学校生活を送ってほしい。

- Q, 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。(他人と協力し探究し続ける)(生徒・教員)  
 Q, 子どもは学校で学んだことを生かして、自分の考えをまとめたり思いや考えをもとに、新しいものを作りだしたりする活動を行っている。(保護者)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計     |
|------|-------|-----------|-------|
| 全国   | 30    | 50        | 80    |
| 京都府  | 28    | 52        | 80    |
| 本校生徒 | 40→30 | 50→54     | 90→89 |
| 保護者  | 12→13 | 44→43     | 56→56 |
| 教職員  | 31→47 | 50→47     | 81→94 |

【考察】

総合的な学習の時間では自らの課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することが目標の1つとして掲げられているが、本校では「近衛タイム」として3年間系統立てて取り組んでいる。11月と1月に上級生による探究活動のプレゼンテーションを聞く機会があった。そうした取組により、年々、より探究的な見方、考え方を身に付けられるようになってきた。前期よりは少し下がったもの、全国や京都府より10ポイント近く高い意識のもと探究活動を続けている。今後も継続的に自らの課題を見つけ、それを解決する力を身に付けてほしい。

2, 自己有用感について  
(保護者, 教職員アンケート含む)

- Q, 自分には良いところがあると思いますか(生徒)  
 Q, 学校で子どもの自己肯定感は育まれている(保護者)  
 Q, 生徒の自己肯定感を高めるように指導方や活動の場の提供など努力している(教職員)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計     |
|------|-------|-----------|-------|
| 全国   | 41    | 46        | 87    |
| 京都府  | 40    | 45        | 85    |
| 本校生徒 | 45→48 | 43→41     | 87→89 |
| 保護者  | 25→27 | 55→59     | 80→86 |
| 教職員  | 63→47 | 37→53     | 100   |

【考察】

全体として生徒の自己肯定感が上がっていることがうかがえる。教員は指導法など、日々工夫しているのが常なので、控えめな回答となったと推察される。また学校行事等でも生徒が自ら学び、自信をつけるように今後も生徒の自己肯定感が上がるような手立てを継続して取り組みたい。

- Q, わたしは将来の夢や目標を持っている(生徒)  
 Q, 子どもは将来の夢や目標を持っている(保護者)  
 Q, 生徒は将来の夢や希望を持っている(教職員)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計     |
|------|-------|-----------|-------|
| 全国   | 36    | 32        | 68    |
| 京都府  | 34    | 31        | 65    |
| 本校生徒 | 47→44 | 30→30     | 77→74 |
| 保護者  | 18→22 | 45→44     | 63→66 |
| 教職員  | 0→6   | 94→88     | 94→94 |

【考察】

前期とほぼ変化のない結果となった。保護者のポイントが上がったことについては、家庭で将来の話をする機会があったか、生徒の家庭生活の中から見出されたことなのかもしれない。本校では2年生でチャレンジ体験を実施しているが、2年生がチャレンジのまとめをプレゼンテーションで1年生に伝える時間を取っている、1年生にとっては年齢の近い先輩からのメッセージは心に響いている。学年別でいうと1年73%・2年71%・3年78%という結果である。2年生は職場体験をしたことにより、ますます夢や目標を明確にできたのではないと思う。また、3年生は将来の夢や目標に迷っていることもあるので一概に高いポイントをよしとする安易な評価は避け、生徒の内面に寄り添う進路指導や教育相談をしていくことが大切であると考えます。

3, ICTの使用について  
(保護者, 教職員アンケート含む)

- Q, 学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(生徒)  
 Q, 子どもはコンピューターなどのICT機器を学習に役立っている(保護者)  
 Q, 生徒がコンピューターなどのICT機器を学習に役立つように授業で使用している(教職員)

|      | 当てはまる | だいたい当てはまる | 計     |
|------|-------|-----------|-------|
| 本校生徒 | 58→51 | 37→43     | 95→94 |
| 保護者  | 22→29 | 57→55     | 79→84 |
| 教職員  | 31→47 | 50→47     | 81→94 |

**【考察】**

生徒はICTを毎日のように使いこなし、教科の学習に役立っている。保護者や教職員の回答結果からも、生徒がICT機器を使用することや、教員が教科指導などにおいてICT機器を利用することが有益で、すでに当たり前の文化として定着していることを認める結果となっている。一方で、生徒が学習以外にICT機器を利用することなどに問題を感じられている面もあることが推察される。今後ICT機器もどんどんと進化し、スペックも高くなることから、生徒のリテラシー教育が必須となる。